

私の名前は美樹。

結婚してから6年が過ぎ、年齢も31歳。もうすぐ32歳になる。

夫は優しくて頼りになる人で、私はそんな夫に心から感謝している。

しかし、優し過ぎてヘタレな所があり、私が求めるといつも断られてしまう。

私だって性欲はあるので、どうしても欲求不満になってしまう。

浮気はいけない事だと分かってはいるので、私は別の方法で解消する事にしている。

それは見知らぬ男性を誘惑して、エッチな目で見てもらう事だ。

もしそのまま少し行為があっても、それは浮気でなく事故として処理される。

そして、その男性は私の事をオカズに出来るというメリットがあるのだ。

色んな見知らぬ男性におかずにされる私。

想像しただけで興奮してしまう...

そんな中、夫が一週間程まとめて休みが取れました。

夫は私の為に温泉旅行を計画してくれていたのです！夫の優しさに感動しながら、私は胸を躍らせていました。

夫「どんな温泉がいい？」

私「うーん、何か混浴とかあったら面白そうじゃない？」

夫「あー、意外とあるだろ。」

私「え、あなた、もしかして普通の混浴を考えてない？」

夫「違うのか？」

私「水着みたいなもの着て入る混浴とか、貸し切りの混浴じゃなくて、もっと違う混浴♪」

夫「いや、お前何言ってるんだよ…」

私「ね、楽しそうじゃない!？」

夫「……」

私「ねえ～あなたもちよっと行ってみたいでしょ?w」

夫「仕方がないなあ…今時そんな場所あればいいけど。」

私「あるよ!きっと!」

こうして私たちはネットで調べてみる事にした。

すると、本当にそういう旅館を見つけてしまった。

しかも、かなりお手頃なお値段だった。

車で行って、途中からは歩いてしか行けないらしい。

露天の混浴がある。もちろん入浴は全裸、知らない人も入ってるかもしれない。

宿泊料金も安い。これは行くしかない!早速予約を取った。

途中まで車で行き、そこから徒歩で山道を歩く事になった。

この辺にはあまり人が住んでいないらしく、車も少なく、すれ違う人は皆徒歩か自転車。

だが全裸で混浴に入れるので、意外と人気があるようだ。一部の人間に。

私は夫と手を繋ぎながら、ドキドキしていた。

暫く歩いていると、道端に男性が立っていた。

男性「こんにちわ」

夫「どうも」

男性「これからどちらへ？」

夫「ちょっと温泉に入りに行くんです。」

男性「ほう、あそこの温泉ですか!あの温泉は良いですよ。」

夫「へー楽しみですですね。来てよかった。」

男性「混浴がいいんですよー。」

夫「そうなんですか！実は私達もそれ目当てで。」

男性「あーそうなんだ！！でもあそこの混浴、裸じゃないとだめだけど、奥さん大丈夫なの？」

男性はニヤけて言う。

私「ええ、そうらしいですね！結構男の人も居ますか？」

男性「あー居るよ！女性の人のはあんま居ないけど、男性はちらほら居るよ。やっぱり女性は入りづらいからね。笑」

私「そうですよね、私大丈夫かな？w」

少し夫をからかってみたくなった。

男性「そんな奥さんみたいな女性が入ってきたら、男はたまんないよねー。笑」

夫「おまえ、褒められてよかったな！笑」

私「もう30過ぎてますけどまだいけるかな！？笑」

男性「全然イケてるよー！顔も体もばっちり！！」

私「ほんとー！？嬉しいー！ありがとうございます！」

男性が私の体をえっちな目で見てるのは既に分かっていた。

私もそれを承知でぴっちり目の服装、生足で深いスリットが入ったスカートを履いてる。

さっきから太ももをチラ見してるのが丸わかりだ。

夫が気づいてないようなので、このまま見てもらおう。

少し大げさに足を開いてみる。やはり男性の視線がそこに釘付けになった。

夫「じゃあそろそろ向かおうか。」

私「うん♪」

男性「気を付けてね！」

通りすがり、男性の股間を見ると明らかに勃起している事が分かった。

私（ふふっ、あんなに大きくして……）

夫の手を強く握りしめながら歩いた。

しばらくすると、予約していた旅館が見えてきた。

入り口には受付があり、そこには男性が一人座っていた。

従業員「いらっしゃいませっ」

夫「予約していた田中です」

従業員「はい、お待ちしております。」

温泉の説明や、宿のルール等を一通り説明された。

私達は部屋の鍵を貰うと早速部屋に案内してもらった。

夫が鍵を開ける。中に入ると綺麗で広い和室だった。

夫「わあーいい感じの部屋だねー」

私「そうねー」

荷物を下ろして、服を脱ぎ浴衣に着替える。

従業員に説明を受けてた時に、一つ驚いた事があった。

それは混浴温泉の入る為の脱衣所が一つしかない事。つまり、他の人と一緒という事になる。

私は、夫の目の前で見知らぬ男達に視姦される自分を想像しただけで興奮してしまう。

夫もそんな私を見て、期待してくれているようにも見える。

私「じゃあ早速温泉行こうよ！」

夫「おお、そうだな！」

ここで私は夫を試してみる事にした。

混浴の事をどう思ってるのか、どこまでしたいと思ってるのか。

私「脱衣所一つしかないからさ、別々に行った方が良くない？」

夫「え？」

私「混んでたら迷惑でしょ。」

ここで私を一人で行かせるような夫なのかどうか。

夫は少し戸惑った様子だったが、すぐに納得してくれた。

夫「そうだな、じゃあ少し後から行くよ。」

・・・きっと夫も私が裸で混浴に入って他人に見られるのを楽しみにしてるに違いない。私はそう確信した。

私「じゃあ先に行ってるね。」

私は一人で脱衣所に行く。

すると、脱衣所にはもう一人居るようだ。恐らく先に来てる男性だろう。

私はなるべく平静を装いながら脱衣所へ入る。

男性客は40代後半ぐらいだろうか。私は男性と目が合った。その瞬間、男性と私は軽い会釈だけ交わした。

凄く狭い脱衣所、どうしても距離が近くなる。男性客の奥に行き温泉の入り口側で、

私はドキドキしながら浴衣の帯を解く。大きい胸が露になり、下半身が露出する。

男性は明らかにだらだらと着替えて、私を見つめていた。

私は男性に背を向けると、下着に手をかけ、ゆっくりと外していく。

